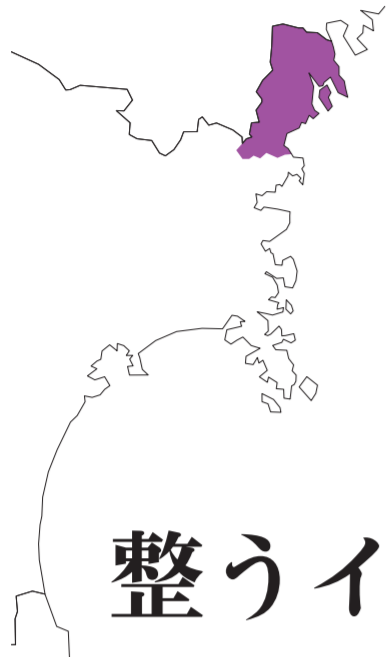
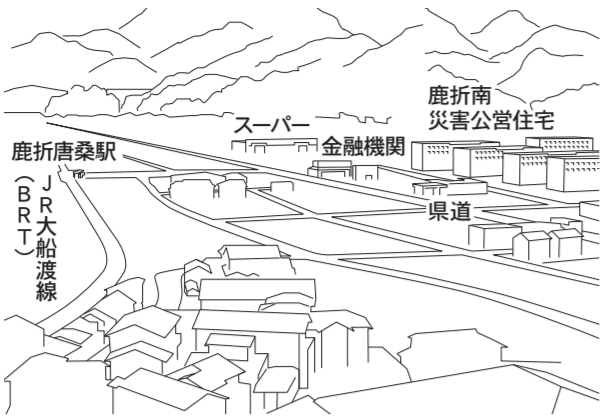


東日本大震災9年4ヵ月

復興の歩み



宮城 気仙沼市

整うインフラ 街発展の鍵

気仙沼市北部の鹿折地区は、新たな市街地の形成が進む。東日本大震災後、かさ上げされた約42%に災害公営住宅、水産加工場、復活した地元商店街、飲食店などが立ち並ぶ。一方で、利用の見通しが立たない区画もある。JR大船渡線はバス高速輸送システム(BRT)に姿を変え、運行されている。

地区は最大8.7mの津波に襲われ、206人が犠牲になった。打ち上げられた大型漁船「第18共徳丸」は津波の脅威を伝える象徴になったが、2013年10月に解体された。その姿は市民の記憶に今も残る。

市内の災害公営住宅の建設は17年5月、防災集団移転先の整備は19年1月に完了した。魚町・南町、南気仙沼地区などの土地区画整理事業は20年度も続く。

104カ所の防潮堤整備は、住民と市、宮城県、国の合意形成に時間を要した。景観への配慮から一部は計画より高さを低くしたり、内陸側に場所を移したりした。工事の進捗率は5月末時点で45%にとどまる。

街には新たな風も吹く。18年11月に開業した観光集客施設「迎(ムカエル)」を皮切りに、中心街の内湾地区に4施設が誕生。にぎわいを取り戻しつつある。

19年4月には、長年の悲願だった大島と本土を結ぶ気仙沼大島大橋が開通した。三陸沿岸道が延伸し、20年中に市中心部と仙台市が高速道路で直接結ばれる。追い風を産業や観光面でどう生かすかが、街の発展の鍵を握る。

* * *

あの日から一歩ずつ復興してきた岩手、宮城、福島3県の被災自治体を、定点撮影で毎月紹介する。



内湾地区の新たな顔「迎(ムカエル)」。気仙沼湾を眺めながらコーヒーを楽しめるカフェなどが入り、週末を中心に観光客でにぎわう＝6月29日

● まちのデータ

人口	2020年6月1日 5万9948人	11年3月1日 7万3154人	増減率 -18.1%
復興交付金	3008億5957万円		
犠牲者	死亡 1109人	行方不明 214人	関連死 109人
住宅被害	全壊 8483棟	半壊 2571棟	一部破損 4761棟

※復興交付金は復興庁まとめ、気仙沼市内で実施された宮城県事業への交付分を含む。人口、犠牲者、住宅被害は県まとめ

2020年



2011年



● まちの動き

- 2011年**
- 3月11日 地震発生。気仙沼で震度6弱。最大津波浸水高は19.3m、1865%が浸水した。市街地は壊滅状態に。海に漏れた重油に引火し、気仙沼湾で火災発生。大島が孤立
- 30日 市中心部と大島を結ぶ大島汽船の定期便が再開
- 6月23日 市魚市場が再開
- 10月7日 市震災復興計画を決定
- 12月20日 仮設住宅全3504戸完成、ピーク時3155世帯が入居
- 30日 避難所を閉鎖
- 2012年**
- 7月9日 災害危険区域に沿岸部13.8平方mを指定
- 12月22日 JR気仙沼線柳津-気仙沼間(55.3%)のバス高速輸送システム(BRT)が本格運行開始
- 2013年**
- 3月28日 土地区画整理事業に着手
- 9月9日 大型漁船「第18共徳丸」の解体開始
- 2014年**
- 7月19日 海鮮市場「海の市」が全面再開
- 2016年**
- 3月24日 「東舞根復興道路」(約1.8km)が開通
- 2017年**
- 4月23日 鹿折地区の「かもめ通り商店街」で街開き
- 5月28日 災害公営住宅全2087戸の整備完了
- 11月11日 「南町紫神社前商店街」で街開き
- 2018年**
- 3月25日 三陸沿岸道の大谷海岸-気仙沼中央インターチェンジ(IC)間が開通。IC開設は市内初
- 4月14日 内湾地区に建設中の防潮堤で完成済みの一部区間が、計画より22m高い県の施工ミスが判明
- 10月31日 最大10カ所あった仮設商店街がなくなる
- 11月15日 観光集客施設「迎(ムカエル)」が本格オープン
- 2019年**
- 1月31日 防災集団移転(876戸)の区画整備が完了
- 3月10日 「気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館」開館
- 4月1日 市魚市場に整備された新施設で水揚げ開始
- 4月7日 気仙沼大島大橋開通
- 7月26日 市内で建設する防潮堤の合意形成が全て完了
- 2020年**
- 3月27日 プレハブ仮設住宅の入居者の退去完了
- 6月21日 三陸道・気仙沼湾横断橋の橋桁接続工事が完了

2009年



● まちの宝



気仙沼湾横断橋

気仙沼湾をまたぐ復興のシンボル。全長1344m、海上部分680m。仙台-八戸の三陸沿岸道で唯一、車窓の両側に海が見える。12月に完成、開通は来年3月を見込む。



カツオ

気仙沼漁港は2019年まで23年連続で生鮮カツオの水揚げ日本一を誇る。仲買や加工、小売りなど関連業者も多い。漁はこれから最盛期を迎え、飲食店で新鮮な刺し身が味わえる。

区画整理が終わる、災害公営住宅や商業施設が並ぶ鹿折地区。西側を進行するBRTとの間には更地の区画も目立つ＝6月17日

津波と、鎮火に11日を要した火災で地区は壊滅状態となった。がれきの山に打ち上げられた大型漁船が津波の脅威を物語る＝2011年3月8日

住宅や商店、水産加工場がひしめいていた＝2009年(気仙沼市の写真集団「鼎(かなこ)」提供)